



2020～21年度
国際ロータリー会長
ポール・ハリス

Weekly Report Niigata



国際ロータリー
2020～21 年度テーマ
ロータリーは機会の扉を開く



2020～21 年度
新潟ロータリークラブ会長
高橋 秀松

新潟 RC 12月第 2 例会 (2020.12.8) (書面例会併催) No.3346

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 高橋 秀松会長挨拶

こんにちは、昨日 12 月 7 日は、24 節気の一つ「大雪」でした。大雪には雪が激しく降り始めるころという意味があります。新潟市内も来週あたり、初雪が降るのではと思っています。寒さに向けて、万全の態勢で、お体に気を付けてお過ごしください。

今日は、シカゴロータリーの変遷について、私見を交えてお話しします。

シカゴロータリークラブは、ポール・ハリス の元に、ハイラム・ショーレー シルベスター・シール ガスターバス・ローアが集まり、1905 年に、創立しました。1910 年に全米ロータリークラブ連合会設立まで、実に様々な動きがありました。決して順風満帆ではなかったようです。

ロータリーが発足した当初は、奉仕の概念は芽生えていませんでした。限定会員制度の社交クラブとして、目的は会員相互の親睦を深める事でした。殺伐とした都会の中で、やすらぎを求め、友情をはぐくむ為に、「一人一業種」と「定例の会合」によってお互いに親睦を深めていく社交クラブでした。やがて会員の事業にお互いが利便を図り合う、相互扶助の考え方が発生してきます。最初の定款は「親睦の充実」と「職業上の利益の向上」でした。

ところが 1906 年のドナルド・カーター事件(自分たちだけの利益にこだわって、社会的に何もしない団体には将来性も魅力も感じないとする理由で入会を断る)がありました。

それを受けて、1907 年にポール・ハリスが会長に就任すると、定款に奉仕の概念が加わり、活動方針を「会員の増強と他都市での新クラブに設立」と「地域社会への奉仕活動」に、大きく転換してしまいました。そしてロータリークラブの最初の奉仕活動は、公衆トイレの設置でした。

親睦派としては、今まで仲良く、互いに稼いできたのが、今更奉仕活動など容認できるものではありません。

これ以後、数年の間、「親睦」と「奉仕」を巡ってシカゴ RC は大揺れに揺れることとなります。1907 年のポール・ハリス会長就任から 1910 年ラムジー会長までの 3 年間は、熾烈な「闘争の場」だったようです。当時のシカゴクラブ会員数は 150 名前後

でした。会員のほとんどは、親睦と互惠を目的に入会したもので、奉仕の概念が入ると混乱し始めます。「奉仕派」の中心はポール・ハリスです。創始者の鶴の一声であっさり決まるほど甘くはなく、対立は想像を絶するものであった様です。

ポール・ハリスの奉仕に積極的に賛同したのが、ドナルド・カーターや 1908 年に入会したアーサーフレドリック・シェルドンなどの少数派で、クラブ内の圧倒的な多数を占める「親睦互惠派」との間で論争が繰り返されます。

1908 年に 2 期目の会長に就任したポール・ハリスは、ロータリーを全米各地に拡大しようとします。そしてその実現のために、宣伝拡大委員会を設置して、委員長を奉仕派のシェルドンを任命します。そこでシェルドンは水を得た魚のごとく頑張るわけですが、奉仕や拡大についてクラブの例会の大半をその時間にあて、より反発を招いてしまいます。シカゴクラブは、拡大についてより一層、反対的な態度となり、結果的にはシェルドンは委員長を罷免されることとなります。ポール・ハリスも会長を辞任するに至ります。

これを新潟 RC で当てはめると、会長である私が辞任をし、石本拡大委員長が罷免されるわけです。大変なことです。

ハリスの辞任後、親睦を盛り上げてきたハリー・ラグラス(ロータリーソングの生みの親)が会長となり、シェルドンの後任には、チェスレイ・ペリー(ハリー・ラグラスが紹介者)選任しました。

この段階では、親睦互惠派の、めでたし めでたしの大勝利となります。

このままでは、今のロータリー、職業倫理を重んずる職業人の集まりで、全世界に向けて、幅広い奉仕活動をする、ロータリーは存在しないことになります。

これから、「全米ロータリークラブ連合会」今の RI 設立に向けての、ポール・ハリスとアーサーフレドリック・シェルドン、奉仕派の復活劇が始まるわけです。

その話は、次回致します。今日はシカゴロータリークラブの変遷について話させて頂きました。

(3) ビジター紹介 木村 廉平君 (新潟万代 RC)

(4) ロータリーの友紹介 (小林建雑誌副委員長)

(5) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(高橋 秀樹委員長)

高橋 秀松君 岡村 健吉君

栗原 美樹君

米山奨学会寄付発表(徳永 昭輝委員)

栗原 美樹君 高橋 秀松君

徳永 昭輝君

青少年育成基金寄付発表(武田 眞二委員長)

本多 晃君 高橋 秀松君

武田 眞二君

(6) ニコニコボックス紹介(中尾 嘉則委員)

・徳永 昭輝君 本日卓話に内藤眞先生をお迎えしニコニコします。

・坂井 賢一君 誕生日プレゼントのワイン有難うございました。67才になりました。又、7年目の記念バッチありがとうございます。ロータリーでの出会いに感謝します。

・石橋正利君 誕生日のお土産有難うございます。この歳になると元気に誕生日をむかえることがありがたいです。

・小飯田 澄雄君 結婚記念日のお花ありがとうございました。又、1日の「野鴨を食べる会」コロナ禍にもかかわらず参加頂きありがとうございました。皆様の笑顔を見ることができ、安心致しました。細野さん、たくさんの美味しいワインを提供頂きありがとうございました。

(7) 岡村健吉君へ米山功労者第1回感謝状伝達

(8) 卓話「ミャンマーの医療支援と感染症の歴史」

新潟県厚生農業協同組合連合会

新潟医療センター 病理部長

内藤 眞氏



卓話講師ご紹介 徳永 昭輝君

(ミャンマー医療支援プロジェクトリーダー)

本日の卓話は、新潟医療センター病理診断科の内藤眞先生にお願いしました。「ミャンマーの医療支援と感染症の歴史」という講演をさせていただきますが簡単に先生のご紹介をさせていただきます。新潟 RC と先生の関わりについて紹介させていただきます。先生は福島県のご出身で、福島県立医科大学をご卒業になり、熊本大学の第2病理学講座の助教授から、平成4年10月、新潟大学の第2病理学

講座の教授に就任され、平成25年4月新潟大学名誉教授、新潟医療センター病理診断科部長に就任されてご活躍されています。

先生には、新潟 RC が国際奉仕活動として取り組んだ「グローバル補助金事業；ミャンマー医療支援；超音波診断装置導入によるヤンゴン市民の医療の向上」では大変お世話になりました。

内藤 眞 先生ご略歴
福島県出身

福島県立医科大学卒業

昭和63年11月1日 熊本大学医学部病理学第2講座助教授

平成4年10月16日 新潟大学医学部病理学第2講座教授

平成25年4月1日 新潟大学名誉教授

新潟医療センター部長(病理診断科)

専門分野：病理学(マクロファージの発生、分化機構と病態)

*第18回米百俵賞(長岡市)「ミャンマーの医療支援」平成26年6月15日

*第73回新潟日報文化賞社会活動部門

「原発事故被災地支援活動とミャンマーの支援活動」令和2年10月30日

国際協力事業「ミャンマーのインフルエンザ研究拠点形成」プロジェクト
(科学技術振興事業平成19-21年度)代表者

グローバル補助金事業の経緯

2015.11.24. 新潟RC例会 内藤 眞教授卓話

2016.3. 内藤眞教授サンビア病院訪問「超音波診断装置の要望」

2016-17年度 ロータリー財団委員会(委員長樋熊紀雄、得永哲史)
～ミャンマー医療支援について話し合われる～

2017.5.16. 新潟RC 国際奉仕委員会にプロジェクトチームができる
「サンビア病院(ヤンゴン第2医科大学病院)に
「超音波診断装置を寄贈する」

5.19. 補助金申請 26,826米ドル(300万円)予定金額提示

2017-18年度「ミャンマー医療支援」に取り組む方針決定
「超音波診断装置を寄贈し、ヤンゴン市民の医療向上を目指す」



12月15日の例会予定

NST新潟総合テレビ 代表取締役社長 酒井昌彦君

岡三にいがた証券 代表取締役社長 辻 和彦君

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>